

＜鳥取市青谷町版総合戦略【第2期】施策体系一覧＞

I 地域コミュニティ推進による住民活力の創出

ID	施策	新規・継続の別	内容	現状及び課題	目標	実施主体	具体的実施施策	基幹的重要施策との連携	達成指標	R4実績	5年度の計画、施策の変更等	R5実績	今後の方針	担当課
1	1. 地域コミュニティの再興	新規	各種ボランティア活動の推進による特色ある地域活動の展開	青谷上寺地遺跡関係では、県が各種団体に委託している草刈りなどのスーパーボランティア事業がある。	青谷上寺地遺跡スーパーボランティア事業の充実と各地域まちづくり協議会や各種団体のボランティア事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>まちづくり協議会</li> <li>各種団体</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スーパーボランティア事業を活用した地域の特徴づくり</li> <li>まちづくり協議会事業の再興及び充実</li> <li>既存実施団体等への新たなボランティア活動展開の提案等</li> <li>「地区緑化事業」を活用した各地区の美観環境整備の取組促進</li> </ol>	青谷上寺地遺跡一帯だけでなく、各地域で四季折々の花等（桜、菜の花、ひまわり、ソバ畑、アジサイ、コスモス等）を栽培し、地域の新たな魅力づくりへの取組みを促進する。来町者増加による全地区の賑わい創出と、住民のボランティア活動成果による自信と活力を引き出す契機としていく。	令和7年度までに、各地区で特色あるボランティア活動を1つ以上実施する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>6団体が実施</li> <li>③④各地区まちづくり協議会のボランティア活動・地区緑化事業等を情報収集し、地区緑化事業の助成金について各地区公民館（まちづくり協議会事務局）に提案中。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各団体が継続して実施予定</li> <li>③④各地区まちづくり協議会のボランティア活動・地区緑化事業等を情報収集し、地区緑化事業の助成金について各地区公民館（まちづくり協議会事務局）に提案中。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4団体が実施</li> <li>②コロナ感染症が5類に移行したことで、多くの事業が再開・形式を変えるなど工夫して実施された。</li> <li>④新たな提案や取組促進は実施していない。</li> </ol>	今後は上寺地遺跡の磨き上げ事業の取組に集約していく。	地域振興課
2		新規	青谷上寺地遺跡展示館建物の利活用	現青谷上寺地遺跡展示館は、青谷上寺地遺跡の史跡整備による令和5年秋のガイダンス施設オープンに伴って、廃止となる見込みである。	廃止後の有効な利活用について検討し、地域の活性化につなげていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> </ul>	青谷上寺地遺跡展示館建物利活用検討委員会を立ち上げ、青谷ようこそ館や旧青谷町商工会館を含む一帯の利活用・賑わい創出の観点から、利活用方法を検討する	イベント開催や青谷上寺地遺跡の観光客を対象とした利用、Wi-Fi環境整備によりリモートによる仕事場、憩いの場としての利用（サロン、子ども食堂等）など、様々な利活用方法を検討し、地域住民の利用の可能性も探る。	青谷上寺地遺跡展示館建物利活用検討委員会を立ち上げ、地域からの意見を反映した施設の活用をする。	令和6年度の総合支所改修に伴う県青谷かみじち史跡公園準備室の一時移転先として活用を検討。	本庁関係課と協議を行いながら検討を進める。	令和5年11月に展示館が閉館しているが、総合支所改修に伴う青谷かみじち史跡公園分室の利用が令和8年度まで決定した。	本施設は文化財課所管であることから、施設単体ではなくにぎわい広場全体で検討を重ねていくべきである。	地域振興課
3	2. 地域活動への参加促進	新規	障がいのある人の社会参加の促進	障がいのある人に対する理解が進まないためか、障がいのある人が社会参加できる機会が限定的。	障がいのある人が参加できる業務・イベント等の情報を入手し関係団体へ提供する体制を整備し、地域への参加促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>各種団体</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>施設の維持管理やイベント等、障がいのある人が参加可能と思われる情報の入手⇒団体への伝達体制の構築</li> <li>施設の維持管理やイベント等への参加促進</li> </ol>	青谷上寺地遺跡が整備されることにより、障がいのある人が参加可能な業務・イベント等が増加すると推察される。これを好機ととらえて参加を促し、生きがいづくりに寄与する。また、この取組みを新しい町の姿として広く広報したり学校教育で取り上げることで、青谷町の新たな魅力を創出する。	構築した伝達体制により、障がいのある人たちがイベント等へ参加する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>②青谷町地域包括ケアシステム推進連絡会の仕組みが活用できないか鳥取市社会福祉協議会と協議した。</li> </ol>	青谷町地域包括ケアシステム推進連絡会の議題の一つとして取り上げていくよう引き続き協議を実施する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①②青谷町地域包括ケアシステム推進連絡会においてID3、ID23の施策概要を説明し、議題に取り上げるよう合意を得た。各団体が所掌する事務事業の整理と団体を超えた同類事業のマッチングが可能か検証した。</li> </ol>	目標、具体的実施施策、達成指標等内容を整理する。	市民福祉課
4		新規	美化活動への参加促進	町内各所では、依然ゴミのポイ捨てが散見され、美観を損う要因となっている。	より一層の美化活動への参加啓発と活動実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>青谷町自治連合会</li> <li>各種団体</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>観光資源への観光客向けの美化活動を促す看板の設置</li> <li>保小中高及び市民による美化活動の促進</li> <li>青谷全地域を対象とする美化活動推進に係る新たな住民運動の立上げ及び重点取組日等の設定</li> </ol>	青谷上寺地遺跡整備に伴い、観光客の増加とこれに伴うごみのポイ捨て等の環境問題の増加が懸念される。青谷上寺地遺跡を含む青谷地域全域で、園児・児童・生徒をはじめ市民がこれまで以上に美化活動に取り組むことにより、遺跡の魅力の維持・向上、きれいな青谷をPRすることによる遺跡へのリピーターの増加、地域住民への環境美化意識の高揚等を目標とする。	青谷上寺地遺跡に焦点を当てた美化活動の実施と美化意識を啓発する看板の設置。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①②③具体策検討のため史跡公園整備エリア付近のごみ収集状況を把握するためのごみ収集を前年度に引き続き実施した。</li> </ol>	同工エリア内での投棄傾向や分量を把握し、具体策を検討するため、引き続きごみ収集を年度内に1～2回程度実施する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①②③具体策検討のため史跡公園整備エリア付近のごみ収集状況を把握するためのごみ収集を前年度に引き続き実施した。</li> </ol>	目標、具体的実施施策、達成指標等内容を整理する。	地域振興課 市民福祉課
5	3. 伝統文化の保護と継承	新規	青谷に伝わる民話の語り部、伝統文化の継承	青谷に由来する民話や伝統文化の継承をする機会が少なくなっている。	小・中学生等を対象に、民話を聞く機会や、伝統文化を伝える機会を作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>青少年育成</li> <li>青谷町地区協議会</li> </ul>	青少年育成青谷町地区協議会の事業の中で、青谷に伝わる民話や伝統文化について話を聞いたり体験したりする機会を設ける。	青谷上寺地遺跡はもちろんのこと、青谷に由来する民話や伝統文化に触れることで、郷土愛を深め、伝承者の育成を図る。	伝承者を発掘し、活動グループを立ち上げ、伝統文化を継承する。	青谷地域の小学生を対象として、青谷に伝わる民話を聞くおはなし会を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のため屋内で行われる事業の実施が困難になったため、屋外で行う郷土の自然にふれる事業を検討している。</li> </ul>	青谷地域の小学生を対象として、青谷町地内の川で水中生物を採すイベントを開催した。郷土の豊かな自然を知る貴重な体験ができた。青谷に伝わる民話を聞くおはなし会は未実施。	青少年育成青谷町地区協議会だけでなく、青谷町総合支所やおおや郷土館と連携しながら、地域の伝統文化の伝承者の発掘と育成に努める。	青谷町分室

＜鳥取市青谷町版総合戦略【第2期】施策体系一覧＞

II 地域利便の向上による住み良さの創出

ID	施策	新規・継続の別	内容	現状及び課題	目標	実施主体	具体的実施施策	基幹的重点施策との連携	達成指標	R4実績	5年度の計画、施策の変更等	R5実績	今後の方針	担当課
6	1. 生活インフラの整備	継続	生活交通運行	日ノ丸自動車（勝部線、日置線、長和瀬線）、市有償運送（絹見線、青谷浜村線）を運行中。	地域生活交通の維持確保及びオンデマンド方式等の運行形態の検討	・総合支所 ・まちづくり協議会等	①青谷地域生活交通協議会の運営・協議の実施 ②青谷地域に適したバス路線の運行のあり方の検討 ③共助交通やバス代替タクシーなどによる運行区域拡大と利便向上の検討 ④生活交通を活用した青谷上寺地遺跡を含めた地域資源のPRの実施	JR青谷駅利用者が青谷上寺地遺跡を訪れる際の、地域交通路線の運行を図り、地域住民及び来町者の利便を向上するとともに、乗客や通学児童に向けて、青谷地域の歴史・自然等の情報を提供することにより、魅力伝達や地域学習の増進を図る。	観光客も利用できる形での、生活交通手段を構築する。	①・②8月と1月に青谷地域生活交通協議会を開催して検討 ③未実施 ④未実施	①・②・③青谷地域生活交通協議会を複数回開催し、検討 ④タクシー事業者と実施方法等について検討	①・②青谷地域生活協議会を5回開催し、民間のバス路線廃止に伴いR6.4.1から運行する“青谷バス”の運行方法等について検討 ③地区座談会等を活用して、共助交通に関する情報提供・検討依頼等 ④“青谷バス”を使って青谷かみじろ史跡公園のアクセスを検討	地域に合った生活交通のあり方の実現に向けて、取組を推進する必要がある。	産業建設課
7	3. 宿泊と居住基盤の整備	新規	居住可能施設の整備	グリーンハイツあおや、望町分譲地ともに入居者募集PRは行っているが、応募問い合わせ件数は低水準にとどまっている。	グリーンハイツあおや入居者、望町分譲地購入者をはじめとする町内居住施設への入居者を増やす	・総合支所	①グリーンハイツあおやへのお試し入居など柔軟な宿泊・入居の可能性を模索する。 ②青谷上寺地遺跡訪問者へ入居者募集情報や望町団地分譲情報などをPRする。	町内の居住可能な施設やその環境をソフト・ハード両面で整備し、青谷上寺地遺跡の訪問者にPRすることにより青谷町への移住・定住人口を増加につなげる。	青谷上寺地遺跡をからめたイベントなどの際に、創意工夫を凝らした入居者募集・PR活動を年1回以上行う。	①県外から青谷高校へ入学し青谷上寺地遺跡について学習する学生のグリーンハイツあおやへの入居について、建築住宅課と協議 ②青谷上寺地遺跡訪問者に限らず、町内企業等へPRチラシ配布（12月）と市公式HPに掲載 2区画を販売（令和5年3月31日時点の未了：13区画）	①グリーンハイツあおやへの柔軟な宿泊・入居の可能性について建築住宅課と連携して検討 ②青谷上寺地遺跡ガイダンス施設訪問者へ入居者募集情報や望町団地分譲情報などをPR	①グリーンハイツあおやへの柔軟な宿泊等について建築住宅課と協議するも実現に至らず。 ②青谷上寺地遺跡訪問者に限らず、入居者募集情報等市報等で広く周知。望町については、3区画を販売（令和6年3月31日時点の未了：10区画）	①は実現に向けてハードルが高いため継続困難、②は継続実施。	産業建設課

◀ 鳥取市青谷町版総合戦略【第2期】施策体系一覧 ▶

Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携によるにぎわいの創出

ID	施策	新規・継続の別	内容	現状及び課題	目標	実施主体	具体的実施施策	基幹的重点施策との連携	達成指標	R4実績	5年度の計画、施策の変更等	R5実績	今後の方針	担当課
8		新規	インバクトのある青谷町のPR	来町される方に対する青谷上寺地遺跡整備のPRが十分に行われている状況にない。	県内外への青谷町の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>青谷地域にぎわい創出実行委員会</li> <li>県青谷かみじち史跡公園準備室</li> <li>各団体</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>青谷地域にぎわい創出実行委員会の青谷上寺地遺跡活用部会の立ち上げ（R3年度）</li> <li>コスモスの見頃に合わせて「青谷上寺地まつり」を開催</li> </ol>	秋のコスモス畑は山陰道から見える位置にあり、県内外の人が青谷インターで降りている。R2年は2000人を超える来訪者と新聞報道等の効果もあり、「青谷町にコスモスのきれいなところがある」という認識が広がった。コスモス等のシーズンに合わせて「青谷上寺地まつり」を開催することで、青谷上寺地遺跡と青谷町を来町者に印象づけ、より効果的なPRを行う。	青谷上寺地遺跡活用部会の立ち上げによる「青谷上寺地まつり」を開催、効果的なPRを展開する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>R3に実施済</li> <li>青谷かみじち史跡公園オープン1年前イベントとして「とっとり弥生の王国青谷かみじちフェスタ」を県、市、青谷地域にぎわい創出実行委員会が主催、運営して11/13に実施。入場者約1,800人。</li> <li>青谷かみじちスタンプラリーを青谷地域にぎわい創出実行委員会が主催して実施（11/6～27）。青谷上寺地遺跡周辺の施設・店舗8か所にスタンプ設置。124人参加。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>R3に実施済</li> <li>R5年度青谷かみじち史跡公園オープン記念イベントとして「とっとり弥生の王国青谷かみじちフェスタ」を県、市、青谷地域にぎわい創出実行委員会が主催、運営して11/23に実施した。入場者約2,500人。</li> <li>青谷かみじちスタンプラリーを青谷地域にぎわい創出実行委員会が主催して11/11～12/7に実施した。青谷上寺地遺跡周辺の施設・店舗9か所にスタンプ設置。120人参加。</li> <li>*いずれも市補助金</li> </ol>	青谷上寺地遺跡と連携した地域のPRを継続して実施すべきである。一方で、行政が取り組むべき内容について、地域・県との役割を整理し、効果的な取組を検討する必要がある。	地域振興課	
9	1. 観光資源の連携と再編	新規	宿泊可能施設の整備と土産品等の開発	町内に宿泊可能施設はほとんどない。また、青谷を強く印象づける地域の食やお土産品が十分に提供できる環境にない。	町内の宿泊可能施設を整備し、町内宿泊客を増やし周辺を観光してもらうことにより、観光振興の促進を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>西商工会</li> <li>事業者</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>町内民間宿泊可能施設（旅館業者、民泊対応事業者など）の整備の推進</li> <li>井手が浜多目的広場や、かちへ伝承館に隣接する田原谷農村公園などをキャンプ場として整備する</li> <li>町内飲食店や商工関係者等との協力による新たな「食」「土産品」の開発を推進する</li> <li>土産品のアイデア企画の公募</li> </ol>	町内宿泊者に青谷上寺地遺跡を中心にその周辺観光していただくことにより、滞在型観光の振興を図る。また、青谷に来町された方に、青谷上寺地遺跡とコラボした新たな「食」や「お土産」を開発、提供し、青谷観光を強く印象づけ、繰り返しの来町を誘発する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>宿泊可能施設の整備の推進。</li> <li>キャンプ場の環境を整える。</li> <li>青谷の新たな「食」「土産品」の開発</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5年度実施に向け検討</li> <li>井手に民間事業者がキャンプ場を整備中</li> <li>町内飲食店が、特色を活かし、青谷上寺地遺跡にちなんだメニュー作りを行い、弥生グルメとしてチラシとのぼり旗を作成した。</li> <li>未実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実施予定</li> <li>井手でキャンプ場を整備中の民間事業者等と連携しながら、環境充実について検討を行う。</li> <li>「かみじちおもてなしプロジェクト」により、青谷上寺地遺跡にちなむ新たな「食」メニュー、「商品（土産品）」の開発を検討していく。</li> <li>引き続き検討する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>体験型民泊「月読庵（つづみあ）」（青谷町亀房）が3月1日オープン（県・市補助金）</li> <li>井手に民間事業者がキャンプ場を整備中</li> <li>町内飲食店が、特色を活かし、青谷上寺地遺跡にちなんだメニュー作りを行い、弥生グルメのチラシの更新とのぼり旗を作成した。</li> <li>未実施</li> </ol>	宿泊環境と特産品開発は分けて整理していく。民泊等の地域事業者が取り組む宿泊環境の充実に向けて支援を継続する。食・土産品の開発についても支援を継続する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①③④地域振興課</li> <li>②産業建設課</li> </ol>
10		新規	地域情報の発信	町内外への青谷上寺地遺跡整備のPRが足りない。	青谷上寺地遺跡を集中的にPRし訪問者増加を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>青谷町観光協会</li> <li>県青谷上寺地遺跡整備室</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>青谷上寺地遺跡をイメージしたキャラクターを検討する</li> <li>支所公用車に青谷上寺地遺跡のシール・マグネットをPRする</li> <li>テレビやラジオなどメディアへの情報提供や、SNS等を活用した情報発信の強化</li> <li>青谷上寺地大使（青谷観光大使）の任命</li> </ol>	青谷上寺地遺跡をイメージしたキャラクターを検討し、PR活動に利用する。支所の公用車等にシールやマグネットを貼り付け町内外でPRする。	イメージキャラクターを検討し、デザイン募集を行い、着ぐるみを製作する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>鳥取県作成のイメージキャラクターを利用した、車用のマグネットシート、のぼり旗を制作し史跡公園オープンPRした。</li> <li>青谷かみじちフェスタの際にFM鳥取による公開生放送を行いPRした。</li> <li>引き続き県と協議</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>県が実施済。</li> <li>市が実施済。</li> <li>引き続き検討する。</li> <li>県と引き続き協議。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>開園中のマグネットシートを作成してPRした。</li> </ol>	キャラクター作成、着ぐるみ等を県が整備しており、今後は県と連携してキャラクターPRを行うことができる。	地域振興課
11	2. 歴史資源の利活用の推進	新規	観光案内の強化	現在、青谷上寺地遺跡展示館があり、その他の文化施設ともスタンプラリーなどを実施しているが、観光、産業面での連携が少ない。	青谷上寺地遺跡整備と町内観光拠点・施設及び道の駅気楽里など、他の地域資源へ繋ぐ交流人口を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>青谷町観光協会</li> <li>青谷町ガイドネットワーク</li> <li>青谷ようこそ館</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>青谷上寺地遺跡の展示施設と観光、産業、特産品等を結び、ツアー回りの設置</li> <li>各施設等を巡る御朱印ツアー等のイベント企画・実施</li> <li>観光案内看板の設置</li> <li>観光パンフレットの作製</li> <li>レンタサイクルの活用</li> </ol>	青谷上寺地遺跡の整備に伴い、既存の観光資源（山陰海岸ジオパークのジオスポット、日本遺産北前船寄港地など）を有機的に連携させ、短期滞在型の企画、イベント等を展開することにより、ストーリー性の高い地域資源活用を確立し、交流人口の増加を図ることによる、相乗的な賑わいと経済効果を高めていく。	<ol style="list-style-type: none"> <li>ツアー回りの設置。</li> <li>御朱印ツアー等のイベント企画・実施。</li> <li>観光案内看板の設置。</li> <li>観光パンフレットの作製。</li> <li>レンタサイクルの活用。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>未実施</li> <li>青谷かみじちスタンプラリー、あおや郷土館・青谷上寺地遺跡展示館・あおや和紙工務めぐりスタンプラリーを実施した（市補助金）</li> <li>未実施</li> <li>町内飲食店が弥生グルメとして開発したメニューを紹介したチラシを作成し、市内施設に配布した。</li> <li>青谷ようこそ館のレンタサイクル活用を検討中</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ツアールート設置に向けて県と検討する。</li> <li>青谷かみじちスタンプラリー、あおや郷土館・青谷上寺地遺跡展示館・あおや和紙工務めぐりスタンプラリーを実施した（市補助金）</li> <li>案内看板設置に向けて関係機関と協議する。</li> <li>弥生グルメは継続。観光パンフレットは青谷町観光協会が「あおやガイドマップ」改訂版を作製する。</li> <li>海と灯台プロジェクトでレンタサイクル開始、およびサイクリングマップを作製した。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>未実施</li> <li>青谷かみじちスタンプラリー、あおや郷土館・青谷上寺地遺跡展示館・あおや和紙工務めぐりスタンプラリーを実施した（市補助金）</li> <li>海と灯台プロジェクトでレンタサイクル開始、およびサイクリングマップを作製した。</li> </ol>	周遊を促進するための案内機能、レンタサイクルなど周遊環境の充実を継続していく。ツアールート作成は観光PRとして整理していく。	地域振興課
12	3. 伝統産業の活性化	継続	因州あおや楮紙手すき和紙保存会のPR、産地イメージアップ	因州和紙は、近年手すき和紙事業者が激減し、産地としての存続と後継者の育成が喫緊の課題となっている中、「因州青谷こうそ楮紙手すき和紙保存会」が、平成27年度活動を再開した。	因州あおや楮紙手すき和紙保存会の活動活性化と因州和紙のPR、産地イメージアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>青谷地域にぎわい創出実行委員会</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>青谷因州和紙産地強化事業部会を中心に事業を実施する。</li> <li>市内イベントや道の駅等へのブース設置による因州和紙のPR</li> <li>「因州和紙フェスタ」及びおき収穫祭」の開催</li> </ol>	和紙のワークショップや和紙フェスタなどで、青谷上寺地遺跡にちなんだ和紙を使った折り紙やちぎり絵などを製作することにより、青谷上寺地遺跡と因州和紙のPRを図る。	道の駅等青谷町外で、年1回以上のイベント実施し、因州和紙をPRする。	<ol style="list-style-type: none"> <li>青谷かみじちフェスタに和紙コーナーを設けPR等に努めた。</li> <li>新型コロナウイルス感染防止のため中止</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大型ショッピングセンター等PRの場を拡大する。</li> <li>納涼祭で和紙ドームを製作しPRする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大型ショッピングセンター、青谷かみじちフェスタ、青谷かみじち史跡公園オープンに和紙コーナーを設けPR等に努めた。</li> <li>納涼祭で和紙ドームを製作しPRした。</li> </ol>	因州和紙産業の強化を継続して支援。 ①大型ショッピングセンター等PRの場を拡大する。 ②納涼祭で和紙ドームを製作しPRする。	地域振興課
13	4. 商工業・地場産業の振興	新規	駅前商店街の賑わい創出	駅前に青谷上寺地遺跡展示館があるが、地元商店街とのつながりや連携が活発であるとは言えない。	駅前一帯のイメージアップを図るとともに、青谷上寺地遺跡訪問者を駅前商店街へ誘導することによる活力の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>まちづくり協議会</li> <li>事業者</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>駅前一帯のイメージアップを図る（例：駅前の複数個所のマンホールを青谷上寺地遺跡デザインにする、青谷上寺地Tシャツ、ジャンパー作成・着用など）</li> <li>青谷上寺地遺跡から駅前への訪問者誘導（例：青谷上寺地遺跡から駅前までの歩道をカラー舗装化し、道しるべなどを設置するなど）</li> </ol>	青谷駅前商店街のイメージアップを図るとともに、青谷上寺地遺跡から駅前商店街への動線を明確化して訪問者を誘導し、沿線商店街の活力と賑わいを創出する。	駅前一帯のイメージアップ施策を実施する。 ②青谷上寺地遺跡から駅前商店街への誘導するための施策を実施する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>駅前一帯のイメージアップ施策については検討中。青谷上寺地Tシャツ、ポロシャツは地域団体が作製済</li> <li>県が実施する上寺地遺跡史跡公園整備の中で案内看板を設置してもらえないか協議（カラー舗装については通学路の安全対策として整備するものであり、道路管理者が観光的で整備することは困難とのこと）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>駅前一帯のイメージアップ施策については検討中。青谷上寺地Tシャツ、ポロシャツは地域団体が作製済</li> <li>案内看板の整備に向けて県と引き続き協議を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>駅前商店街の活性化から、駅前周辺エリアの活性化へ方針変更する。イベントによるにぎわい作り、空き家の活用による人流創出の取組を支援していく。</li> <li>要望に対して随時対応検討していく。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域振興課</li> <li>②産業建設課</li> </ol>	
14		継続	青谷ようこそ館を活用した地域特産物販売の拠点整備	指定管理者により農産物販売、軽食販売などが行われているが、利用者の低迷と生産者等との繋がりが弱体化している。	青谷ようこそ館の飲食スペースを充実させることで集客を図り、地域特産物販売の拠点とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合支所</li> <li>指定管理者</li> </ul>	指定管理者と協力し、新商品を開発し、飲食の提供や加工品、地域特産物の販売等、積極的な経営展開を図る。	青谷上寺地遺跡の訪問者を青谷ようこそ館に誘導し、食事等を提供するとともに、地域の特産物をPRすることで販売促進、販路拡大を図る。	地域特産の新商品を開発する。	甘長とうがらしみそ、古代米のパウンドスティック、古代米甘酒等開発。	継続して魅力ある地域特産の新商品を開発していく。	令和元年度に道の駅気楽里がオープンし、地域のアンテナショップとしての役割が重複するなど、今後施設の方向性を再精査していく必要がある。	産業建設課	

◀ 鳥取市青谷町版総合戦略【第2期】施策体系一覧 ▶

Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携によるにぎわいの創出

ID	施策	新規・継続の別	内容	現状及び課題	目標	実施主体	具体的実施施策	基幹的重点施策との連携	達成指標	R4実績	5年度の計画、施策の変更等	R5実績	今後の方針	担当課
15	5. 農林漁業の付加価値の向上	新規	農林水産物の振興	青谷上寺地遺跡訪問者へ特産物を機能的にPRする体制は整っていない。	地域の農林水産物振興	・総合支所 ・生産者	①地域の特産品（梨、びわ、しいたけ、海産物など）の販売促進 ②米、梨、シイタケなどの栽培・収穫体験、施設見学イベントの開催 ③農林水産業の担い手の育成	青谷上寺地遺跡関連イベントで地域の特産物をPRすることで販売促進、販路拡大を図る。また、青谷上寺地遺跡訪問者や町外在住者なども絡めた形で農業に触れる体験を実施し地域の農林水産業の魅力を伝え、次世代の農業の担い手の候補として誘う。	①イベントの機会を捉えて、地域特産品の販売やチラシ配布等のPRを行う。 ②栽培・収穫体験、施設見学イベントを実施する。	①コロナ禍のため未実施 ②コロナ禍のため未実施 ③漁業関係で青谷1名、夏泊1名研修中	①・②機会を捉えて、地域特産品の販売促進やPRを実施 ③農林水産業の担い手の育成支援	①・②県漁協主催の朝市が4年振りに復活。市主催のイベント開催は実績なし。 ③漁業関係で3名の研修生があったが、支援の依頼がなかったため支援実績はなし。	担い手への支援は継続。地場産品のブランド化について検討を進める。	産業建設課
16	6. 青谷高等学校の魅力創造	継続	青谷高校生による青谷上寺地まつりの企画・運営	「あおいち」でのボランティア活動等を通じて、青谷高校生が地域との連携を深め、地域振興にも貢献している。	ボランティアとして参加するだけでなく、高校生が企画したイベントを実施する	・総合支所 ・青谷高等学校	青谷上寺地まつりイベントの企画、各種ボランティア活動を行う。	青谷上寺地遺跡関連イベントを実施するにあたり、高校生がイベント企画の役割を担い、地域と連携して取り組んでいく。	イベント企画1回以上。	青谷かみじちフェスタにおいて、弥生研究発表、吹奏楽演奏、FMとっとり生放送出演などを行った。	青谷かみじちフェスタで実施予定	青谷かみじちフェスタにおいて、弥生研究発表、吹奏楽演奏を行った。	地域イベントの企画運営等に限らず、青谷高校の特色づくりの取組に対する支援は必要である	地域振興課
17		新規	青谷高校生が発案した青谷の特産物等を利用した商品の地元企業やNPO法人、団体等と協力した開発及び販売	高校生が「青谷学」「課題探究」で取り組んだ成果は、一部商品化に結び付いているものもあるが、十分に活かされておらず、対外的にPRする機会が少ない。	青谷上寺地遺跡で栽培された古代米を利用した商品、因州和紙等関連の商品を青谷高校生と協力して開発、販売する	・総合支所 ・青谷高等学校 ・事業者	青谷高校生が考案した青谷上寺地遺跡関連のグッズ、お土産、青谷町内の特産物（因州和紙、鮮魚、農産物等）を利用した商品等を事業者等と連携して試作・販売を行う	青谷上寺地遺跡を積極的にPRするとともに、「青谷学」「課題探究」の成果をひろく内外にPRし、青谷高校のイメージアップを図る。	年に1品以上のデザイン企画による検討会を開催し施策作品製作に取り組み。令和7年度までに1品以上の商品化を目指す。	令和3年度に蓮アイスを地元と共同開発したことにより事業完了となった。	事業完了	商品開発はなし。蓮アイス販売を継続。	地域素材を活用した商品開発等に限らず、青谷高校の特色づくりの取組に対する支援は必要である。	地域振興課
18	7. 地域資源の磨き上げ	新規	地域資源の情報発信の強化	青谷地域を紹介するパンフレット等は多彩に作成され、主要な施設等で提供されているが、地域のさまざまな資源の魅力をまとめたPR動画は作成しておらず、動画による情報発信は行っていない。	地域動画を作成し、動的PRを行うことにより、より情報の伝達力を高め、青谷町訪問者のリピーター化と賑わいの創出を図る	・総合支所 ・青谷町観光協会	①観光・地域の魅力PR動画を作成し、青谷上寺地遺跡ガイダンス内で上映する。 ②道の駅や庁内関係各所での放映、YouTubeやSNSへの掲載等、効果的なPRの展開	青谷上寺地遺跡の訪問者に地域のさまざまな地域資源の魅力を情報提供することにより、地域へ再度の訪問客を誘う。	PR動画を作成し、ガイダンス施設内で上映する。	①青谷地域の観光資源・観光情報を紹介する青谷町観光協会のホームページに観光PR動画を制作した。 ②未実施	①②青谷町観光協会ホームページの活用、PRを行う。	①②青谷町観光協会ホームページの活用、PRを行った。	地域情報の発信強化と重複するため、整理統合する。	地域振興課
19		新規	青谷上寺地遺跡デザインの地紋紙の導入検討	鳥取市では、全市で統一の「風紋」の地紋紙が使用されている。	青谷上寺地遺跡をデザインした台紙による各種証明発行の検討	・総合支所	青谷上寺地遺跡の地紋紙について、市役所内関係各課と協議を行いながら、デザイン化と導入を検討する	青谷上寺地遺跡の遺物等をデザインした青谷支所オリジナルの台紙で各種証明を発行することにより、青谷上寺地遺跡のPRを図り、青谷支所来庁者・青谷町来訪者へのイメージ戦略を展開する。	オリジナル台紙導入実現に向けて、初年度に関係各課と検討に入る。	課内協議、青谷かみじち史跡公園準備室協議および市民課協議を継続して実施した。	支所限定のオリジナル台紙の導入から、全市共通窓口封筒へのワンポイントデザイン導入へ変更する。導入デザイン等については市民課と継続協議する。	ワンポイントデザインを全市共通窓口封筒に導入し、RO6.01より全市窓口に配架された。	全市共通窓口封筒へのPRは機会を捉えながら今後も継続して取り組む予定。	市民福祉課
20	継続	卓球のまち青谷の復活	青谷高校卓球部員及びJOBによる卓球教室や青谷オープン卓球大会を開催している。	卓球に触れあう機会や、参加しやすい卓球イベントの検討	・総合支所 ・青谷オープン卓球実行委員会 ・各種団体	卓球のまち青谷の復活を目指し、卓球人口比率の向上を図る。 ①青谷オープン卓球大会・卓球教室の開催 ②出張卓球講習会 ③卓球に親しむためのイベント開催	青谷上寺地遺跡展示ガイダンス施設オープンに関連した卓球大会の開催	出張卓球講習会やイベント開催	①青谷オープン卓球大会を11月5.6日に計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。 ②未実施 ③青谷上寺地遺跡展示ガイダンス施設オープンを盛り上げるため、「青谷上寺朗杯卓球大会」という大会名で卓球大会を12月4日に開催し、56名参加した。	①青谷オープン卓球大会を11月4.5日に開催する。 ②地域から要望があれば、各団体と調整する。 ③「青谷上寺朗杯卓球大会」を12月3日に開催する。	①青谷オープン卓球大会を11月4.5日に開催し、17チーム約180名参加した。試合の合間や終了後に実技講習を実施した。 ②地域からの要望がなく未実施 ③青谷かみじち史跡公園オープンを盛り上げるため、「青谷上寺朗杯卓球大会」という大会名で卓球大会を12月3日に開催し、52名参加した。	オープン卓球および青谷かみじちろう杯を活用した取組を支援していく。 ①青谷中学校卓球部の状況をみながら、大会内容を実行委員会にて検討する。 ②実施方法について検討。 ③経験者も未経験者も楽しめる卓球大会の開催を支援。	地域振興課	

◀ 鳥取市青谷町版総合戦略【第2期】施策体系一覧 ▶

IV 安全な生活環境の整備による安心の創出

ID	施策	新規・継続の別	内容	現状及び課題	目標	実施主体	具体的実施施策	基幹的重要施策との連携	達成指標	R4実績	5年度の計画、施策の変更等	R5実績	今後の方針	担当課
21	1. 地域の安全環境の整備・向上	新規	道路整備	随時又は計画的な道路設備、安全設備の維持修繕は行われているが、青谷上寺地遺跡への案内表示板等は設置されていない。	生活の利便性の向上と安全対策	・総合支所 ・県、公安委員会等	①青谷上寺地遺跡への道路案内、道路標識等の新設の検討 ②市道の補修 ③街路灯、防犯灯の更新 ④歩道等の安全対策	青谷上寺地遺跡施設までの道路案内、道路標識等を新設し、訪問者が山陰道、国道から安全に訪問できるよう整備する。また、訪問者と地域住民の交通安全にも配慮した整備を行う。	案内看板等の施設を整備する。	①青谷かみじち史跡公園の完成時期に合わせて、鳥取県と一緒に案内看板等の設置を検討 ②継続して実施 ③沿道にある防犯灯はLED化し地元へ移管済 ④県道倉吉川上青谷線から中学校の間の歩道整備について、国の補助を活用した既存道路の歩道改良を検討（隣接の上寺地史跡公園整備との計画調整が必要であり、今後の史跡公園整備の詳細設計と併せて検討）	①市道部への設置も含め、鳥取県が整備を検討中 ②継続して実施 ③沿線にある防犯灯はLED化し地元へ移管済 ④県道倉吉川上青谷線から中学校の間の歩道整備について、国の補助を活用した既存道路の歩道改良を検討中	②は通常業務として実施中。 ③は移管済。①・④は現時点でが県が検討している。	産業建設課	
22	2. 住民防災意識の向上と組織育成	新規	避難所運営を視野に入れた地域の防災組織育成	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、指定避難所収容人数が制限される中、大規模災害時等の地域での避難所自主運営など、自主防災組織の必要性が高まっている。	各地域の防災組織が避難所を自主運営する体制の確保	・総合支所 ・自主防災会等	①防災リーダーの育成 ②自主防災会の組織強化 ③実行性のある地区単位の自主防災組織の結成 ④自主防災組織の育成と強化	大規模災害の発生時に、住民、施設管理者、市の3者が連携して、避難所の開設から運営までを円滑に実施するよう、自主防災組織の体制づくりを行う。	各地区で避難所の自主運営が出来る自主防災組織の確立。	①コロナ感染拡大防止のためリーダー養成研修が中止。 ②③④自主防災会の訓練の際に、段ボールベッド、簡易パーテーションの組立を行い、避難所開設の経験を積んだ。 わがまち防災支援補助金を進め、各地区の必要備品の充実を図った。	地区自主防災会の防火訓練等にかかる補助制度を進め、防災資機材等の充実を図る。	①防災リーダー養成研修を実施し、各地区すべてに配置した。 ②③④自主防災会の訓練の際に、段ボールベッド、簡易パーテーションの組立を行い、避難所開設の経験を積んだ。 地区防災訓練助成を進め、各地区の防災訓練の推進と必要備品等の充実を図った。	地区自主防災会の防火訓練等にかかる補助制度を進め、防災資機材等の充実を図る。	地域振興課
23	3. 生活弱者等の安全環境の構築	継続	生活弱者の見守り体制強化と居場所づくり	生活弱者に必要な情報が十分伝わっておらず、生活できなくなる直前に支所等に支援を求められる事例が散見される。また、生活弱者を対象とした居場所は作られつつあるものの十分とは言えない。	『孤立』を防ぐ体制の充実	・総合支所 ・民生児童委員 ・関係団体	①避難行動要支援者支援制度を活用した見守り体制の充実 ②“居場所”を運営する団体の設立・育成支援 ③『孤立』しそうな世帯を事前に把握・支援する体制の検討 ④外出の動機づけ	青谷上寺地遺跡を中心に据えたまちづくりに取り組もうとしている中、まずボランティア等に関わる地域住民が、安心していきいきと生活することができる環境をつくり、青谷地域の安全性をアピールする必要があり、“安心”、“つながり”という面での充実を図る。	避難行動要支援者登録台帳への登録の増加。 今連携の取れている居場所づくりの団体を、ふわっとカフェの会を軸に、いきいきサロンなども巻き込んでネットワーク化する。	①登録動向について、関係団体の協力のもと継続して取り組んだ。 ②居場所づくりについて、育成支援を継続して取り組んだ。 ③④青谷町地域包括ケアシステム推進連絡会の仕組みが活用できないか鳥取市社会福祉協議会と協議した。	青谷町地域包括ケアシステム推進連絡会の議題の一つとして取り上げていくよう引き続き協議を実施する。	目標、具体的実施施策、達成指標等内容を整理し、未来プランへの移行を検討する。	市民福祉課	
24		新規	「青谷上寺地遺跡子育て応援パスポート」の導入	青谷地域の住民にとっては、県・市が発行する子育て支援パスポートを使える場所が非常に限定的。	「青谷上寺地遺跡子育て応援パスポート」の導入	・総合支所	①関係部署との協議調整しながら導入可能な制度の設計 ②設計された制度に基づく協賛店への協力要請 ③カード発行 ④住民へのカード取得・利用促進	青谷上寺地遺跡を冠に掲げる「子育て応援パスポート」を発行し積極的に利用していただくことにより、「青谷に住んでよかった」とより感じていただくことにより、青谷町の地域資源のPR、子育て世代を地域全体で応援をしていくという機運の醸成等を図る。	実現に向けて、初年度に関係各課と検討に入る。	①②③④課内協議を継続して実施した。	カードの新規創設ではなく、イベント限定あるいは期間限定等でのオプション的な子育て支援サービスができないか検討していく。	①②③④青谷さんぽフェス実行委員会主催の同イベント(R05.10.09)において、賛同いただいた出店者に子育て支援の一環として特典を提供いただいた。	同様の取り組みは機会を捉えながら不定期で実施を検討する。	市民福祉課
25	4. 健康・福祉の充実	新規	青谷上寺地遺跡にちなんだ新しい健康食の開発と普及	鳥取市食育推進委員会青谷支部の活動は伝達講習が中心であり、活動の場が限定的で会の認知も十分進んでおらず、会員確保等が課題となっている。	弥生人も食べていた食材を使った健康食の開発と普及	・総合支所 ・鳥取市食育推進委員会 青谷支部	①新しい健康食の開発支援 ②地区・集落等での調理講習会の開催 ③支所だより等での健康食のPR	地域住民の健康維持・増進に非常に重要な役割を担っている鳥取市食育推進委員会青谷支部に、青谷上寺地遺跡にちなんだ健康食を開発・普及していただくことにより、青谷上寺地遺跡の認知度向上、支部の魅力向上・活性化、遺跡に関連する事業に従事するボランティアを含む地域住民の健康維持・増進等を図る。	健康食を開発し、商品化する。	①②③鳥取市食育推進委員会青谷支部と支所職員による青谷上寺地遺跡健康食プロジェクトチームを発足し、メニュー開発に取り組んだ。	メニュー開発について継続して取り組む。またメニュー完成後の活用方法やPRについて検討していく。	目標、具体的実施施策、達成指標等内容を整理する。	市民福祉課	
26		継続	ウォーキングイベント等の開催	青谷地区の健康づくり地区推進員会では健康ウォークを実施しているものの、参加者は非常に限定的となっている。	青谷上寺地遺跡を含む観光コースを活用したウォーキングイベント等の開催	総合支所 青谷町健康づくり地区推進員会 各種団体	①新たなウォーキングコースの設定 ②コース案内看板の設置 ③ウォーキングイベント等の開催 これらに関係団体と連携して進める ④あおや健康ポイント制導入	青谷上寺地遺跡を含むウォーキングイベントを開催することにより、青谷上寺地遺跡のより一層の認知度向上・来訪者の増加等を図るとともに、このコースを地域住民等に日ごろから活用いただくことにより遺跡に関連する住民の理解を高め、事業に従事するボランティアを含む地域住民の介護予防、健康活力増進等を図る。ウォーキングコースの設定においては、ジオトレイルとの連携を図ること、青谷地域住民だけでなく、来訪者にも魅力あるコースづくりを図り、健康増進と交流増進に努める。	あおや健康ポイントカード加入者登録数500人を達成する。	①県、市（本庁、支所）、関係団体で上寺地遺跡周辺を含むウォーキングコース案を踏査した。 ②③未実施 ④他地域事例の情報収集、本庁との情報交換を実施した。	山陰海岸ジオパーク散策モデルコース策定に向けて引き続き関係者との連携を図る。健康ポイントについては、支所独自のポイント制ではなく、県事業との連携ができないか検討していく。	①青谷上寺地遺跡周辺をメインとするコースと、井手方面に向かうサブルートを含んだコースマップを作成した。 ②③未実施	目標、具体的実施施策、達成指標等内容を整理する。	市民福祉課